

生理学：嚥下

40-035 摂食・嚥下について誤っているのはどれか。

1. 先行期は認知機能の影響を受ける。 *先行期(認知期)は、食物を認知する時期で、感覚機能や*
2. *準備* 口腔移送期には口唇で食物を取り込む。 *口腔移送期=口腔期、認知機能が関係する。*
3. 口腔準備期には咀嚼によって食塊を形成する。 *食塊を舌の両側面に送る。*
4. 咽頭期は反射的な運動である。 *えん下反射がある。*
5. 食道期は蠕動運動である。

41-019 正常の摂食・嚥下の過程で誤っているのはどれか。

1. 食塊は舌によって硬口蓋に押し付けられる。
2. 舌が後ろに引き下がり食塊を咽頭に送り込む。
3. 軟口蓋が下降し、咽頭鼻部が開く。 *閉じる*
4. 喉頭が前上方に挙上する。 *上昇 ※喉頭が前上方に挙上し、喉頭蓋が下がり、気道の蓋とする。*
5. 輪状咽頭部を通り食塊が食道に移動する。

45-A-066 嚥下で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 嚥下反射の中樞は橋にある。 *延髄*
2. 口腔期に軟口蓋は上方移動する。 *咽頭期に鼻咽腔が完全に閉じる。*
3. 咽頭期に喉頭が反射的に挙上する。
4. 嚥下反射時に呼吸は継続して行われる。 *一瞬止まる。*
5. 食塊が食道に入るときに輪状咽頭筋は緊張する。 *弛緩*

46-A-066 嚥下で正しいのはどれか。

1. 口腔内の食塊は反射運動で咽頭へ送られる。 *随意運動(反射的要素がある)*
2. 軟口蓋が挙上すると咽頭と鼻腔の通路が開く。 *閉じる*
3. 喉頭蓋が引き上げられて気道が閉鎖される。 *下かって*
4. 食塊が食道に入る時期に呼吸が促進される。 *一瞬止まる。*
5. 食道期の食塊移動は蠕動運動による。

47-P-067 嚥下で誤っているのはどれか。

1. 食塊が舌によって咽頭に送られる過程を口腔期という。
2. 食塊が咽頭粘膜に触れると、嚥下反射が誘発される。
3. 嚥下反射のときに喉頭蓋が後方に倒れる。
4. 輪状咽頭筋が収縮すると、食塊が食道に入る。 *弛緩*
5. 食塊が食道に達すると、食道の蠕動運動が生じる。

えん下反射
 咽頭=食塊が触れる
 →舌咽N. 迷走N(求心路)
 →延髄(中樞)
 →舌咽N. 迷走N(遠心路)
 →上部咽頭筋収縮、輪状咽頭筋弛緩、喉頭挙上
 上部咽頭筋は収縮するが、一番下部の輪状咽頭筋は弛緩する。

<摂食と嚥下>

先行期(認知期)

食物を認知する時期
 感覚(視覚・嗅覚など)や
 認知機能が関与する。

準備期(咀嚼・運動期)

食物を口腔内に取り
 込み、咀嚼し、
 食塊を形成する。
 咀嚼筋、口輪筋、
 頬筋、舌筋などが
 関係する。

えん下の三相

口腔期
 舌に食塊が
 硬口蓋に押し付
 けられた後、
 咽頭に送り込ま
 れる。
 随意運動
 軟口蓋が挙上する。

咽頭期
 食塊が咽頭
 粘膜に触れると、
 えん下反射が起
 こり、食塊が食道
 へ送り込まれる。
 軟口蓋が完全に
 挙上し、鼻咽腔
 を閉じる。
 喉頭が挙上し、
 喉頭蓋が後方に倒れる。

食道期
 食道のぜんどう
 運動で食塊
 を胃に送る。
 食道の運動
 迷走神経